

佳作

あついで、おつかれ様です

茨城県 神栖市立植松小学校三年 加藤 愛琉

わたしの家の近くに、中学校があります。その中学校のまわりの草がのびてくると、一人のおじさんが、もくもくと草むしりをやってくれています。わたしは、何かそのおじさんが草むしりをしている所を見たことがあります。おじさんが草むしりをした所は、小さい草もなく、いつもピカピカになっています。あつい日も、さむい日も、草がのびてくるとおじさんがやっていたので、中学校の先生にたのまれてやっているのかと思っていました。

夏休み入ってすぐに、その道を通ったら、おじさんがいつものように、もくもくと草むしりをしていました。その日は、とてもあつい日で、ねっ中しゅうになりそうな日でした。その時、わたしはお母さんとお姉ちゃんと買い物に行った帰り、エアコンのきいた車の中で、

「あついののに、大へんだね。」

と話していました。家に帰ると、おじさんが気になって、ねっ中しゅうにならないか、きゅうにふ安になりました。テレビやがいつ放送で、毎日のように「ねっ中しゅうに気をつけて」といついていたので、心ばいになりました。そして、家にあつたのみ物をとどけてあげようと思いました。お母さんに言ってお茶とジュースをもっておじさんの所へ行きました。いざ、おじさんの所に行ったら、知らない人に声をかけるなんてきんちゅうしたけど、ゆう気を出して、

「のみ物どうぞ。」

と言いました。そしたら、おじさんは、

「いいんですか、ありがとうございます。」

と言ってくれました。おじさんは、その後、色々な話をきかせてくれました。

おじさんの名前は、斉藤さんといって、子どもが中学生のころ、中学校の先生にとてもお世話になったので、そのおん返して、草むしりをしているといっていました。わたしはその話を聞いて、とてもかえりさつしました。ふつうの人は、お世話になってもあいさつしれないけど、斉藤さんは、ボランティア

アで四年間つづけていて、すごいと思いました。

斉藤さんは、どうしても、もう一どお礼を言いたくて、家をさがして来てくれました。斉藤さんは、お母さんに、

「四年間、草むしりをしていてのみ物をもらったのは、はじめてで、とても感動しました。」

と言ってくれました。わたしの方こそ、ボランティアで一生けんめいに草むしりをしている斉藤さんに感動したのに、その人から感動されるなんて、「いいことしたなあ」と思いました。お父さんもお母さんも斉藤さんの話を聞いて感動していました。

今日は、感動だらけのさい高の一日でした。